

都市再生整備計画(第4回変更)

さがみおおのえきしゅうへんちく
相模大野駅周辺地区

かながわ さがみはらし
神奈川県 相模原市

平成21年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	神奈川県	市町村名	相模原市	地区名	相模大野駅周辺地区	面積	240 ha
計画期間	平成 13 年度 ~ 平成 22 年度	交付期間	平成 18 年度 ~ 平成 22 年度				

目標

- 大目標: 魅力ある中心市街地の形成とふれあいのあるまちの創造
- 目標1: 市街地再開発事業による高次都市機能の集積を図る
 - 目標2: 交通環境の整備・改善による円滑な交通処理と安全で快適な歩行者空間の確保を図る
 - 目標3: 公共施設の整備により、子育て支援や世代間でのふれあい空間の確保を図る。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- 当地区は、小田急線相模大野駅を中心に相模原市の中心市街地の一つとして、百貨店、文化施設などが立地し、相模原市を代表する一大商業地が形成されているとともに、後背地については、学校施設の集中する文教地区や住宅地が存在するなどの特徴を有している。
- 国道16号線と県道町田厚木線が交差する交通上の要所であり、優れた交通環境、商業集積の高さ、人口の増加傾向などから、地域の持つ将来性は高いが、近年は駅周辺の交通混雑、近隣商業地との競争による地域商業の伸び悩み、住宅の過密化の進行等の課題を抱えている。このため、低・未利用地の高度利用、道路等の整備、商業機能の集積等を進めるなど、中心市街地に相応しい都市基盤の整備や広域性を有する商業・業務エリアとしての整備が求められている。
- 相模原市総合計画において、当地区は相模原市の南の玄関口としての広域的な拠点地区、既存商業の振興、高次都市機能の集積や都市基盤を整備することなどが位置づけられている。
- 当地区は中心市街地活性化法に基づく基本計画の区域に位置づけられている。
- 当地区は、小田急線相模大野駅、小田急相模原駅、東林間駅近隣の昭和40年代頃から開発がされた住宅地があり、東京や横浜への便が良いことから人口が増加しており相模原市内でも人口の密度の高い地域である。
- 当地区の住宅地については、交通便利性の良さなどから子育て世代の流入が見られる区域だが、歩道の幅員の不足や段差がある道路が多いことや、身近な公園などの空地が不足している区域である。
- 地域住民によるワークショップ形式での公園づくりの検討が行われていたり、良好な住環境の保全を図るため地域住民によるまちづくり協議会がつけられ、地区計画による保全が図られるなど、住民活動が行われている地域である。
- 相模線道緑地や横浜水道道緑地については、市民の憩いの場としての活用がされている地区である。

課題

- 駅周辺の交通混雑や地域商業が伸び悩んでいるとともに、ふれあいの場となる公共施設の不足が課題となっている。**
- 住宅地が過密化している事から、低・未利用地の高度利用を図る必要がある。
 - 市民の学習・交流拠点が不足しており整備が求められている。
 - 来街者増加に伴わない地域にふさわしい都市基盤の整備が求められている。
 - 住宅地域については、子育て世帯の流入が見られる地域であるにもかかわらず、子育てを支援する公共施設等が不足している。
 - 住宅が密集し市内でも公園整備面積が少ない本地域の中で、地区内の住民の憩いや交流の場として、また、災害時の一時避難所としてのオープンスペースとして、身近な公園や広場の確保が求められている。
 - 交通面では、幹線道路の整備やバリアフリー化が十分に図られていない。

将来ビジョン(中長期)

魅力ある中心市街地の形成と住民の交流を通じたコミュニティの醸成を目指す。

- 相模原市総合計画においては、駅周辺の交通混雑の解消、地域商業の伸び悩み、住宅の過密化の進行に加え、地域住民のコミュニティ意識の希薄等の課題に対応するため、中心市街地に相応しい都市基盤と広域性を持った商業・業務エリアの整備を推進する他、住宅地と商業との調和など住環境の保全と創造に努めるとともに、住民の交流等を通じたコミュニティの醸成への取組みが位置づけられている。
- 都市計画マスタープランでは、相模大野駅周辺地区を本市の交流の核として位置けるとともに、より一層の商業・業務・教育・文化機能の集積が位置づけられている。
- 都市計画マスタープランでは、公共交通網の充実など利便性の向上が位置づけられている。
- 相模原市総合計画においては、地域内の貴重なみどりの保全と活用、狭い道路の拡幅整備や中心市街地、広域交流拠点としての都市基盤整備を図ることが位置づけられている。
- 相模原市総合計画では、住民の交流の場となる身近な公園の整備を進めることが位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
乗降客数の増加	人/日	「相模大野駅」における乗降客数	駅周辺の魅力や利便性を高めること等により、公共交通利用者の2%増を見込む。	111,212	H16	113,436	H22
地区内定住人口	人	地区内の人口	高次都市機能の集積や都市基盤の整備等、魅力ある住環境の創造により、3%人口増を見込む。	38,500	H17	39,600	H22
商店街の来街者数	人/日	通行量調査による地区内に来街する人数	安全で快適な歩行者空間の整備と魅力ある中心市街地の形成により、来街者の5%増を見込む。	103,244	H16	108,406	H22
来街者のまちの好感度	%	まちへの好感度(アンケート結果)	魅力ある中心市街地の形成により地区の好感度のアップを図る。	40.4%	H16	45.40%	H22

都市再生整備計画の整備方針等

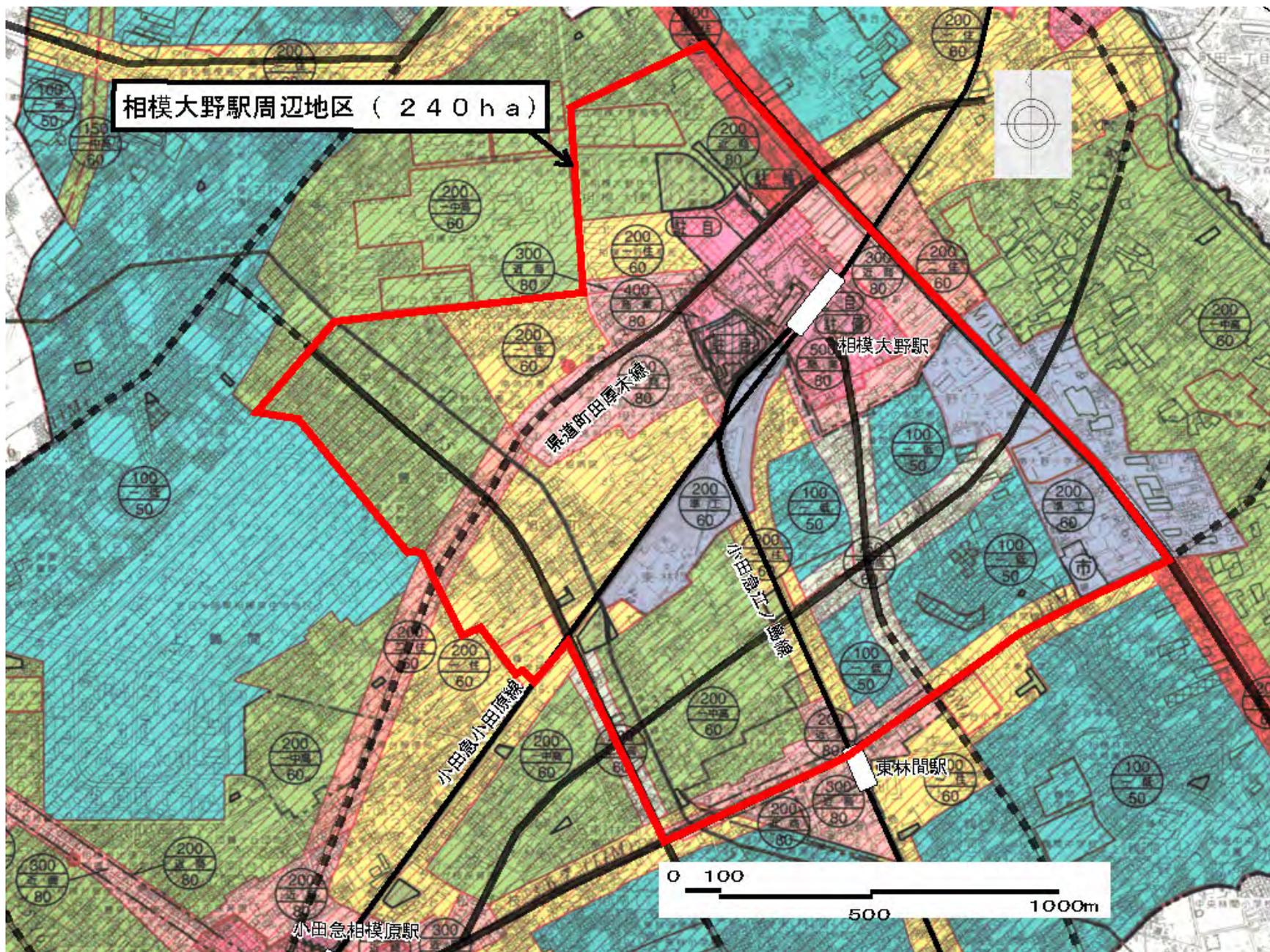
計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1(活気とにぎわいある新たな拠点の創造)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地再開発事業の促進と都市基盤施設を一体的・総合的に整備することによる都市機能の強化と魅力ある市街地の創造。 ・市民の多様なニーズや活動に対応する学習・交流拠点の整備。 	<p>提案事業/文化会館再整備事業、提案事業・関連事業/南市民ホール再整備事業、関連事業/市街地再開発事業</p>
<p>整備方針2(交通環境の改善と安全で快適な歩行者空間の創出)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立体横断施設の整備によるアクセシビリティ・回遊性の向上。 ・道路等の整備による、発生集中交通の円滑化処理、都市の利便性の向上、都市機能の強化。 ・自転車駐車場のラック改修による、設置台数の増加と利便性の向上。 ・コリドーの改善による商業地の魅力づくりと来街者の快適性、利便性の向上。 ・立体横断施設の改善による地区の景観の向上、歩行者のやすらぎとふれあいの場の創出。 ・バリアフリー対応した歩道整備により歩行者の通行環境の改善を図る。 	<p>道路(基幹事業/相模大野西通り線)、道路(基幹事業/市道相模大野北通り線)、道路(基幹事業/市道相模大野駅前)、道路(基幹事業/市道磯部大野)、道路(基幹事業/市道文京大野)、高質空間形成施設(基幹事業/相模大野コリドー改善事業)、高質空間形成施設(基幹事業/立体横断施設整備)、高次都市施設(基幹事業/自由通路等整備事業)、提案事業/自転車駐車場ラック改修、関連事業/県道51号道路整備、県、関連事業/市道上鶴間153号)</p>
<p>整備方針3(子育て支援とふれあい空間の確保)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て環境の充実やふれあい空間の確保のため、相互に利用ができる隣接した位置に公園及び子供センターの整備。 ・子育て環境の充実やふれあい空間の確保のため、公園の整備及び隣接地に保育園の整備。 	<p>公園事業(基幹事業/旭町公園、豊町公園、林間公園、市)、緑地整備(提案事業/こどもセンター植栽、市)、緑道ネットワーク化事業(関連事業/相模緑道緑地整備、県)、市民活動(関連事業/旭町ワークショップ、地域住民)、こどもセンター整備(関連事業/南大野子供センター、市)、保育園整備(関連事業/南大野保育園、市)、アダプト制度による公園維持管理(関連事業/自治会等)</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 公園の整備及び管理 <ul style="list-style-type: none"> ・公園の整備については、地域住民によるワークショップの手法の導入により、子供も参加した整備計画が進行中及び準備中である。維持管理については、アダプト制度により住民主体の維持管理を行う予定である。 	

交付対象事業等一覧表

交付対象事業費	3,647	交付限度額	1,458.8	国費率	0.4
---------	-------	-------	---------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費		交付対象 事業費	
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分		
														事業費
道路		相模大野西通り線	相模原市	直	L=60 西側 L=90東側	H14	H22	H18	H22	1,379	573.6	573.6	573.6	
道路		市道相模大野北通り線	相模原市	直	L=130	H18	H22	H19	H22	392	58.9	58.9	58.9	
道路		市道相模大野駅前	相模原市	直	L=500	H19	H20	H19	H20	66	66	66	66	
道路		市道磯部大野	相模原市	直	L=290	H19	H19	H19	H19	5.8	5.8	5.8	5.8	
道路		市道文京大野	相模原市	直	L=29	H19	H20	H19	H20	137.3	137.3	137.3	137.3	
公園		旭町公園整備事業	相模原市	直	A=2,500㎡	H18	H18	H18	H18	454	454	454	454	
公園		豊町公園整備事業	相模原市	直	A=3,030㎡	H19	H19	H19	H19	38	38	38	38	
公園		林間公園再整備事業	相模原市	直	A=8,465㎡	H19	H21	H19	H21	333	333	333	333	
河川														
下水道														
駐車場有効利用システム														
地域生活基盤施設														
高質空間形成施設		相模大野コリド一改善事業	相模原市	直	A=1,252	H17	H20	H19	H20	186	180	180	180	
高質空間形成施設		立体横断施設整備事業	相模原市	直	エスカ6基 エレベ3 基 上屋 W=6m	H20	H22	H20	H22	594	4	4	4	
高次都市施設		自由通路等整備事業	相模原市	直	A=3,622	H20	H22	H20	H22	2,583	1,370	1,370	1,370	
既存建造物活用事業														
都市再生交通拠点整備事業														
土地区画整理事業														
市街地再開発事業														
住宅街区整備事業														
地区再開発事業														
人にやさしいまちづくり事業														
優良建築物等整備事業														
住宅市街地総合整備事業	拠点開発型													
	沿道等整備型													
	密集住宅市街地整備型													
	耐震改修促進型													
都市再生住宅等整備														
防災街区整備事業														
合計										6,168	3,221	3,221	0	3,221
…A														
提案事業		事業箇所名	事業主体	直/間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体 事業費	交付期間内 事業費		交付対象 事業費	
事業	細項目					開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分		
														事業費
地域創造支援事業	自転車駐車場ラック改修事業	自転車駐車場ラック改修事業	相模原市	直	自転車駐車台数2,800台	H18	H18	H18	H18	87	87	87	87	
	文化会館再整備事業	文化会館再整備事業	相模原市	直	A=31,799㎡	H17	H20	H18	H19	308	308	308	308	
	南市民ホール再整備事業	南市民ホール再整備事業	相模原市	直	A=1,217㎡	H18	H19	H18	H19	28	28	28	28	
	大野南地区こどもセンター植栽工事	大野南地区こどもセンター植栽工事	相模原市	直	A=100㎡	H18	H18	H18	H18	1	1	1	1	
事業活用調査	まちづくり交付金事業効果分析業務	区域全体	相模原市	直	240ha	H22	H22	H22	H22	2	2	2	2	
													0	
													0	
													0	
まちづくり活動推進事業													0	
合計										426	426	426	0	426
合計(A+B)													3,647	
…B														



相模大野駅周辺地区(神奈川県相模原市) 整備方針概要図

目標	魅力ある中心市街地の形成とふれあいのあるまちの創造	代表的な指標	主要駅の乗降客数 (人/日)	111,212 (16年度)	→	113,436 (22年度)
			地区の人口 (人)	38,500 (17年度)	→	39,600 (22年度)
			商店街の来街者数 (人/日)	103,244 (16年度)	→	108,406 (22年度)

